

私は四十年以上動物病院を営み、小動物の診療、治療を行ってまいりました。

高校時代にボクサーの繁殖に始まり、大型はゴールデンレトリバー、小型ではヨークシャー、チワワまで約十犬種に近い犬種の繁殖に携わって来ました。

繁殖した子犬を譲渡する場合は、社会性を獲得してからという判断の下にやってまいりましたが、兄弟犬の中でもその時期に付いては個々に異なります。発育の度合と同様に、社会化の時期についても個体差が相当大きいということです。

又、社会化期は犬種によっても異なり、生後四十日位で独り立ちをし、繁殖者を安心させる子犬もあれば、離乳に時間がかかる子犬もおります。

また、ブリーダーの飼育技術や環境によっても、子犬の社会化の時期は異なります。この様に、沢山の要因が複雑に関連する「社会化」を担保する手段として販売日齢の下限を定めるのは、あまりに機械的であり、かつまた科学的とは云えないのではないのでしょうか。

したがって幼齢動物の販売日齢等の数値を定めることは大変難しいと思います。また、仮に日齢や週齢を定めたとしても、ブリーダーが生年月日をごまかした場合、どの様な手段でそれを確認し摘発するのか非常に難しいと思います。

再度申し上げますが、販売日齢は、個体差、犬種の差、飼育環境の差、ブリーダーの知識や資質によっても異なるので、ブリーダーが責任をもって健康なる犬を育成するのが基本だと思います。

次に、繁殖制限措置について申し上げます。母体となる犬が体力及び知力が十分になってから繁殖するのが基本でありますから、早期繁殖は当然認める事は出来ません。

しかし、繁殖を開始した後は、出産後の発情期が来るということは、体力が十分に回復した証拠であり、連続して繁殖してかまわないと思います。これは動物の生理として当然のことで、人為的に何度も発情を見送ることは、逆に生殖器障害の原因ともなります。勿論、栄養面でも飼育条件の面でも、劣悪な環境の下で行われる乱繁殖は認められませんが、ブリーディングは犬の生理学に配慮して進めてもらいたいと思います。

また、繁殖年齢を制限することは、健康で長命の犬を作りあげることと矛盾するのではないのでしょうか。

高齢でも出産できるという能力は、ある程度遺伝する~~こと~~ことは、動物学の世界では常識であります。

仮に、比較的若い年齢で繁殖を打ち切るようなことをすれば、長命性や繁殖性そして強健な体

質を持つ犬の選抜が出来なくなることになります。

正に「角をためて牛を殺す」のたとえになってしまいます。

# ペット動物取扱い業者として正しい知識取得のための講習会

○ 遺伝性疾患基礎セミナー（仮称）

○ 犬、猫繁殖に関する共通点・相違点と

繁殖障害について（仮称）

人間と動物のかかわり合いは古く、特にペットと称される動物から人間は、物理的・精神的両面で大きな恩恵を受けております。また、ペットはコンパニオンアニマルとして多くの国民の豊かな日常生活、高齢社会、犯罪防止の多方面に貢献。さらに情操教育、ストレス社会の「癒し」にも大きな効果が認められているのは周知のことです。

そうした中ペットの供給と流通に深く関わりのある私たちペット動物取扱い業者の社会的使命・責任が問われているところです。動物の愛護及び管理を推進し、広く国民に動物の適正な取り扱いに関して正しい知識及び理解をもたせる普及啓発を実践するためには、まず私たちペット動物取扱い業者が、正しい知識の取得と取組みについて認識することが重要です。

そこで、身近な問題として繁殖について再度勉強したいと考えています。是非、この機会にふるってご参加下さい。

なお、登録畜犬業者資格者は出席をお願いいたします。

**日時** 平成22年10月14日（木曜日） 午後1時15分～5時（開場 1時）

**場所** 静岡県ケネル事業協同組合 組合会館

浜松市北区細江町中川888-9

**入場料** 無料（員外1,000円、テキスト代含む）

**対象** 本会所属員、家族・従業員、並びに員外ペット専業者

**内容** **第一部 遺伝性疾患基礎セミナー（75分予定）**

講師：アニコム損害保険(株) 獣医師 宮下めぐみ氏

**第二部 犬、猫繁殖に関する共通点・相違点と**

**繁殖障害について（75分予定）**

講師：ロイヤルカナンジャパン 獣医師 五十嵐 靖氏（予定）